

今後発生が想定される南海トラフ地震発生時の応援職員派遣に係る  
アクションプラン策定のためのワーキンググループ（第1回）【議事要旨】

1 日 時 令和5年7月11日（火）15:00～17:00

2 開催方法 WEB 会議形式

3 出席者（五十音順）

【構成員】

稲山 輝 （指定都市市長会事務局調査・企画担当次長）  
植田 達志 （静岡県広域防災統括官）  
上村 卓也 （熊本市政策局危機管理防災部危機管理課長）  
江口 悟 （高知県危機管理部危機管理・防災課長）※代理：四反田  
大西 章文 （北海道総務部危機対策局危機対策課長）※代理：我満  
陰山 暁介 （兵庫県危機管理部防災支援課広域防災官）  
古嶋 康博 （東京都総務局総合防災部防災対策担当課長）  
佐崎 一晴 （熊本県知事公室危機管理防災課長）  
高木 美江 （名古屋市防災危機管理局危機対策室主幹（広域連携））  
竹村 昌彦 （全国知事会調査第二部副部長）  
西岡 欣也 （三重県防災対策部災害対策推進課長）  
西嶋 大文 （全国町村会行政部副部長）

4 議事経過

①開会

②議題

- (1)ワーキンググループの協議スケジュール（案）
- (2)南海トラフ地震アクションプラン（仮称）の適用
- (3)次回以降のワーキンググループに向けた重点受援県・地域ブロック  
幹事県等への報告依頼

③閉会

5 概要

(1) ワーキンググループの協議スケジュール（案）

【資料説明】

・資料1（総務省）のとおり説明

【意見交換】○構成員、●事務局

○ 関係者会議で定められた方針や新たな被害想定に基づき、応援県等・受援県の組み合わせを調整ということだが、南海トラフ被害想定が大きく仮に変わった場合には、我々の検討内容も変えざるを得ず、手戻りになってしまうことが心配される。

● 南海トラフ地震についても被害想定に振れ幅があり、見通せない部分はあるが、アクションプランの円滑な整理という部分等は共通すると思われるので、そういったところは、極力、手戻りをしないような形、幅を持たせた形で協議を進めていきたいと考えている。

- 仮に被害想定がどのような形に出てきたとしても、今の想定の下で一つつくっておき、新たな被害想定に基づいて再度改定する、あるいは、その時には振れ幅の中で調整するというような申合せだけというのでもよいかと思う。

(2) 南海トラフ地震アクションプラン（仮称）の適用

【南海トラフ地震に関する情報について】

- ・ 気象庁から説明

【資料説明】

- ・ 資料 2-1（総務省）のとおり

(3) 次回以降のワーキンググループに向けた重点受援県・地域ブロック  
幹事県等への報告依頼

【資料説明】

- ・ 資料 3（総務省）のとおり

【意見交換】 ○ 構成員、● 事務局

- 応援体制の事例報告等については、いわゆる都道府県ないし知事会との協定そのものはここでの調査や報告の対象ではないという理解でよいか。
- 応援体制の事例報告対象は、他県への応援職員派遣における都道府県と管内市町村との連携事例などで、例えば、都道府県が要綱を定め、その中で管内市町村への依頼・とりまとめ方法や応援対象業務、応援期間といったものをあらかじめ定めているような事例の報告をイメージしている。
- 資料 3 の 2 の応援体制の事例報告について、県内における市町村間との連携というのは、県内の市町村間の応援ではなく、例えば、A 県が他県に応援に行く場合における A 県と A 県内の市町村との間の連携という認識でよいか。
- イメージしていただきたいのは他県への応援の際に、県内の市町村の方々と連携してどのように応援に行く事例があるかということの基本を報告いただきたいが、こういった事例が少なく、県内であれば優良事例があるという場合も考えられる。また、県内応援の場合と県外応援の場合でとりまとめのルールを分けていない団体もあると思われるので、あくまで基本形として、県外応援に関する優良事例や参考となる事例を報告いただきたい。  
ただ、県内応援に関しても、県外応援にも有効な事例として参考になるのではないかとということであれば、積極的に紹介いただきたいと考えている。

以上